

★競技運営に関する申し合わせ事項（一般の部）★

県大会は、今年度野球規則及び競技者必携による他、下記の申し合わせ事項により行う。

1. 野球規則、競技者必携並びに本申し合わせ事項は、必ずチーム全員に徹底させること。
今年度から一般の部の全ての大会で指名打者制度を適用する。
2. ダッグアウトは、組合せ表の若い番号を1塁側とする。
(ただし、ダブルヘッダーの場合、時間の都合で変更することもありうる。)
3. 競技に参加する各チームは、試合開始時刻60分前に球場に参集し、試合開始30分前までに、監督または主将が打順表を本部に提出すること。(必ずユニフォーム着用)
○第2試合以降のチームは、前の試合4回終了時に打順表4部を提出のこと。
○打順表には、登録されている者全員を記入(フルネーム・フリガナ)すること。
※大勢が整っている時は、試合開始予定時刻前でも試合を開始する。
4. (1) 一般Aクラスの試合について
○試合は9回戦とする。九州都市対抗については時間制を採用する。
○延長戦は、準決勝戦までは、10回表から特別延長戦を行う。
○決勝戦のみ延長戦を2回実施し、決しない場合は1 2回表から特別延長戦を行う。
○特別延長戦は無死1・2塁、打者継続、勝敗の決するまで行う。
○コールドゲームは、5 回以降7点差とする。(決勝戦のみ7回以降7点差とする。)
○降雨、日没などで試合を変更する場合は、球場責任者の判断により両チームの監督に伝達する。
(2) 他のクラスの試合について
○試合は7回戦とする。延長戦は、準決勝戦までは、8回表から特別延長戦を行う。
○決勝戦は延長戦を2回実施し、決しない場合は10回表から特別延長戦を行う。
○特別延長戦、コールドゲームなどについては、上記の一般Aクラスに準ずる。
5. 試合中は次の行為を禁止する。
(1) ベンチ内でのガム、喫煙。喫煙のために試合中にベンチ外に出ることは禁止する。
(2) ベンチからの好ましくない野次。
(3) プレーヤー、審判員に対する個人攻撃。(目にあまる行為は厳重に処分する。)
(4) ベンチ内での携帯電話及び携帯マイクの使用を禁ずるが、電子スコア記録用として、1台の使用は認める。メガホンは1個に限る。
(5) 打者が投げ終わった球種を次打者他に知らせることを禁止する。
6. 試合はホームプレートを挟んで挨拶のときに、正規のユニフォームを着用した10名以上の選手がいなければならない。
7. 抗議のできる者は、監督または主将と当該プレーヤーのみとする。
8. ランナーズコーチも必ずヘルメットを着用すること。
9. 次打者は、投手が投球姿勢に入った素振りをしてはならない。
10. 試合をスピーディーに行うため、攻守交代は駆け足で行うこと。
投手は捕手、その他の野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合は20秒以内に投球しなければならない。
11. 攻守交代の最後のボール保持者は、マウンドにボールを置いてベンチに戻ること。
12. 試合中、選手がスパイクの紐を結び直すため等のタイムは認めない。攻撃中ベンチ内で締め直すように心掛けること。2塁打を打ち手袋を走者用に変えることは認めない。
13. ファウルボールは一塁側、三塁側へ飛んだ方向のベンチ側が処理し、中間は攻撃側チームが処理する。主審へのボール渡しも適時攻撃チームが行うこと。
14. 試合中、内野手の転送球は一廻り以内とし、定位置付近で行うこと。
(試合状況により制限することもある。)
15. アンフェアな行為、スポーツマンシップに則しない行為は慎むこと。
(インターフェア、オブストラクションを厳しく適用する。)
16. 試合中はみだりにベンチから出ないこととする。試合中、ベンチ前のキャッチボールは禁止するが、ブルペンでのキャッチボールは2組44名以内とする。
17. 球場内では、練習中でもユニフォーム(統一したもの)を着用すること。
18. サングラスの着用を認める。帽子のツバに乗せることも出来る。
ただし、投手のミラーレンズは認められない。
19. 捕手は安全のためファウルカップを着用すること。
なお、投球練習時の捕手は、必ずマスクを着用することとする。
20. 試合終了後のグラウンド整備は必ず両チームで行うこと。ベンチの清掃も行うこと。